

過去の土砂災害を聞いて

足羽第一中学校

一年

高嶋 たかしま

陽奈 ひな

我家をおそった土石流災害について、家で
 話し合っただことがありました。祖母と母が
 よく聞きます。二〇〇四年の7月、今が二
 十一年前のことです。福井豪雨によって、福
 井市内、足羽川堤防の決壊の日、私の家の町
 内でも、道路が山からの土石流で埋まっ
 たり、たのでした。道の反対側の家は、床下を
 土石流が通り抜けていっ、たそうです。私の家
 は、少し高めたので、家のすまてはト口
 水は入らなかつたそうです。でも車庫の中ま
 てはト口が浸水してきました。祖母が
 言うには、前の家のお年寄りのおばあちゃん
 を助けに行っ、て、おんぶして家に連れ帰っ、た
 そうです。道はト口水と石や木が川のように
 下へ流れていました。おんぶしていても、足
 を持っ、ていかれそうになっ、たとのこと
 です。家の横には用水路がありますが、その溝が土
 砂で全て埋まっ、てしまいました。今は、手

ロウ「口としか水が流れていない用水路が土
 砂で埋まってしまうなんて、いったいどれた
 けの土の量が流れてきたのかと思うとせつと
 します。山の土が全部流れ出てしまったの
 ではないかと思えます。自然の力はとてもす
 ごいし、おそろしいと思います。近所の土石
 流の次は足羽川の決壊でした。木田地区の提
 防が橋の手前で決壊して西の方へ流れてい
 たらさうです。フェニックス通りを通り越して
 さきに西へ進み、井のり地区まで埋まりました
 た。そこには祖母の職場であった日赤病院が
 あります。病院の西側全部が土砂で埋まっ
 ちました。さうです。その日は日曜日た、たの
 で、翌日の月曜日からの仕事は大丈夫なのか
 と夕方、病院まで車で見に行きました。さ
 うです。でも病院周辺は、立ち入り禁止な
 りて、近づくけませんでした。救急車だけ通
 るようになつていました。次の日から仕事
 は近づくの親せきの家に車を止めさせても
 分りません。福井豪雨の影響

響はあちこちで、つめ跡を残したのでした。それからというもの、祖母は災害の時のために、防災グッズを集めるようになりました。飲水用タンク、簡易トイレ、ウエットティッシュ、除きんシート、歯ブラシ、延長コード、電池、懐中電灯、などなど。家族も皆がどこに置いてあるのか知っています。今日のテレビでロシアのカムチャツカ半島で地震があり、日本の太平洋側全域に津波警報が出ました。いつ、どこで自然災害が起こるかわかりませんが、また、近くで起こるかもしれません。何か起こってもしつかりと準備しておきたいと思います。災害の時に私に何かできるかわかりませんが、言われたことをするだけかもしれません。皆さんが、皆が協力して力を合わせれば、大さな方になると思います。祖母が分かったのですが、町内の土石流を取り除く作業を各家から皆が参加して、手作業で掘り出したこのことでした。母も、叔母も、まだ学生でした。が、参加して土砂を掘り起こしたそうです。

皆で力を合わせて、半日で終わることかでき
 く、車も通れるようになったそうです。土砂
 はどこへ持っていったか知りませんが、ほ
 大な量の土砂だろうと思います。そして、
 町内でたき出しをして、おにぎりを作ったそ
 うです。母も一緒におにぎり作りをしたそう
 ですが、しっかりと石けんで手洗いをしたのに
 もかかわらず、食べたあとにおなかをこわ
 したそうです。顔に土がついていたり、つめ
 の間に入りこんでいたりして、口から入って
 しまっただのでしょう。病原さんは目に見えな
 くて、知らない間に体に入っていたとわい
 と思いました。災害時こそ、こいねいに行動
 すべきだと思います。日頃の手洗いや清潔に
 も、注意しなければなりません。考えます。
 このようなおこは、急にはできるようになる
 とは思いませんが、少しずつですが、考え方
 をかえて、参加していきたいと思います。地
 区などの防災訓練なども、いつもは参加した
 ことは、あまりなかったのですが、この話を

聞いて、災害時にすぐ対応できるように、なるべく参加してみたいと思います。また、家には、犬二匹と猫二匹のペットを飼っています。災害がおきた時、避難することになります。このペットたちは一緒に避難できるのたうるか、亡なったり、行方不明などにならないたうるか、などと不安になります。鳴りたりして他の人の迷わくになるたうかと思はうと、車の中でぬるか、家に残るかなどの選択肢しかないのかな、などと思ったりもします。災害おんてない方がいいと思いますがい、いつ来るか、予想もできないので、できるだけ、予防、対策などしたりして、いつも心の準備をして、いつでも行動できるようにしておきたいと思ひます。